

## 二の丸御殿

江戸時代の武家風書院造りの代表的なもので、車寄（くるまよせ）に続いて遠侍（とおざむらい）、式台（しきだい）、大広間（おおひろま）、蘇鉄の間（そてつのみま）、黒書院（くろしよいん）、白書院（しろしよいん）の6棟が東南から北西にかけて雁行に立ち並んでいます。

建物面積3,300平方メートル、部屋数33、畳は800畳あまり敷かれています。

### 車寄

唐門（からもん）を入ると豪華に装飾された車寄が目に入ります。欄間彫刻は表と裏のデザインを変えており、表側には五羽の鸞鳥（らんちょう）・松・牡丹（ぼたん）、上部には雲、下部には笹を見ることができます。屋根は桧皮葺（ひわだぶき）になっており、床は牛車で中に入れるように四半敷になっています。

### 遠侍

二の丸御殿内で最大の床面積をほこり、約1046.1平方メートルあります。一の間・二の間・三の間・若松の間・勅使の間等に分かれていて、城へ参上した大名の控えの間です。写真の部屋は遠侍二の間で、虎の間とも呼ばれていて虎と豹（ひょう）の絵が描かれています。

### 勅使（ちやくし）の間

この間は、将軍が朝廷からの使者（勅使）を迎えた対面所です。

### 式台の間

参上した大名が老中職とあいさつを交わしたところです。将軍への献上品はこの部屋で取次がされました。

### 大広間一の間・二の間

一の間は広さ48畳、二の間は44畳となっています。将軍が諸大名と対面した部屋で二の丸御殿の中で最も格式の高い部屋です。この部屋で慶応3年（1867年）10月、15代将軍慶喜（よしのぶ）が諸藩の重臣を集め、大政奉還（たいせいほうかん）を発表した歴史的な部屋です。

また二の間は後水尾天皇の行幸のときに、南庭につくられた能舞台の見所に使われました。

### 大広間四の間

将軍の上洛のときに武器をおさめた場所と云われています。襖絵は老松に鷹が描かれています。

### 黒書院

将軍と親藩大名・譜代大名の内輪（うちわ）の対面所です。大広間より若干規模は小さいのですが部屋飾りはより技巧的です。襖絵は探幽の弟、尚信（なおのぶ）の作品です。

## 白書院

将軍の居間・寝室だったところですが、内部の装飾も大広間や黒書院とは趣向が異なっています。絵画は狩野興以(かのうこうい)または長信(ながのぶ)の作で、居間にふさわしい水墨山水画となっています。